

Bangladesh インターンシップで体感する 「顔の見える金融」

国内研修 1日 + 現地 7日間

国内事前研修 9月5日(土)

Bangladesh 9月6日(日) ~ 12日(土)

Bangladesh
Dacca / Bogra

国内研修コース概要

日時：2015年9月5日 (11:00-17:00)

場所：参加者に追ってご案内 (都内を予定)

● 事前研修・担当講師



Dr. Stuart Rutherford 名古屋大学教授、SafeSave 創設者

30年以上にわたり貧困者のファイナンスについて、実践と研究をしてこられたマイクロファイナンス研究の第一人者。代表作に、マイクロファイナンスを志す多くの人々のバイブルでもある「最底辺のポートフォリオ (みずず書房)」がある。1996年にBangladeshにてマイクロファイナンス機関「Safesave」を創設し、研究だけでなく実践の経験も深い。

● 講習の目的

「インクルーシブファイナンス (Inclusive Finance)」の代表例であるマイクロファイナンスの歴史、課題と現在を知ることで、「責任ある金融サービスの提供」の意味と意義を考える。

● 講習の詳細

講義① Microfinance Overview and History

マイクロファイナンスのルーツを17~19世紀までさかのぼり学び、その後1976年を契機にグラミン銀行やBRACにより組織化された貧困層へのマイクロファイナンスへと発達するまでの流れを、各モデルの仕組みと共にその原型となったグラミンのグループローンの手法やターゲット人口について紹介する。2006年以降マイクロファイナンスは全世界で急速に拡大し、モバイルバンキングの発展を通して顧客のニーズに合った商品開発などが進められている。時代と共に発展するマイクロファイナンスを考えながら、真に貧困層が求めている金融サービスの在り方を改めて考える。

講義② Learning from what poor do for themselves

貧困層のお金の流れと管理方法を学びながら「なぜ組織化された金融サービスが必要とされているのか」「なぜお金を借りた貧困層が返済する事ができるのか」を考える。貧困層の収入は少ないだけでなく不安定である為、人生の節目において必要とされるまとまった資金の確保が非常に難しい。貧困層の暮らしはまとまった資金源がない故に様々な制約を受けているが、その資金調達をコミュニティ内で実現する仕組みも古くから存在している。Bangladeshでの研究事例に基づき、貧困層の収入・出費・売り買い・貸し借りなどをクローズアップして観察する。雇用されている日本人よりはるかに複雑で逼迫した貧困層のお金の管理について学ぶ事により、クレジットだけでなく貯蓄・保険・送金など求められている金融サービス全般をタイプ別に吟味する。

講義③ What is required at MFIs for “Responsible” provision of financial services ?

2010年驚異的なスピードで成長していたインドのマイクロファイナンス機関「Andhara Pradesh」の業務が破たんした。その原因の1つに貧困層の返済能力に見合わない無責任な貸付を行ったことがある。これを契機に、良い面ばかりクローズアップされていたマイクロファイナンスの運営と意義について疑問が上がるようになった。「融資を受ける貧困層が必要とする金融サービスを、1人1人の返済能力を吟味して貸し付け、返済に向けて責任を持ってその能力開発を進め、貧困からの脱却を支援する」、そんな要素を人々はマイクロファイナンス機関に求めている。その達成は可能なのか、それを達成するためには何が必要なのか、マイクロファイナンス機関は今後どうあるべきなのか、自身が運営するSafe Saveなどでの取り組みを通して学んだことについて発表する。